

長野県日本語交流員養成・研修 カリキュラム

文化庁 平成30年度～令和2年度日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業活用事業

1 目的

誰もが暮らしやすい地域を実現するための日本語学習支援について考え、支援者として学び続けることができるとともに、地域における多文化共生を推進する担い手となることができる。

2 目標

外国人と地域住民が双方向で学び合い、楽しく参加できて、日本語学習につながり地域の暮らしの向上に役立つ。地域住民も参加し、外国人と接することで異文化理解を図る。

積極的に地域住民として学習者とコミュニケーションをとる。

3 対象

地域住民の意識を変えていく重要な役割ができ、多文化共生に興味のある者

4 定義

(1) 地域日本語教育コーディネーター

行政、地域の関係機関、関係者との連絡調整を行い、日本語教室の運営、日本語教育のプログラム作成を行う者。また、地域日本語教室とをつなぐ役割をする者。

(2) 日本語教師

日本語を直接学習者に教え、言葉と学習者を繋ぐ。

地域の日本語教育体制の状況を分かっており、地域の日本語教育体制と連携をしていく者。

(3) 日本語交流員（文化審議会国語分科会の報告における「日本語学習支援者」のことをいう。）

日本語を学習者に直接教えるのではなく、地域と学習者を繋ぐ。(1)、(2)の日本語専門職と連携しながら学習者と共に成長する者。

(4) 学習者

県内に生活する外国人（生活者としての外国人）

【日本語教育人材の役割の整理】

日本語教師	日本語学習者に直接日本語を指導する者
日本語教育コーディネーター	日本語教育の現場で日本語教育プログラムの策定・教室運営・改善を行ったり、日本語教師や日本語学習支援者に対する指導・助言を行うほか、多様な機関との連携・協力を担う者
日本語学習支援者	日本語教師や日本語教育コーディネーターと共に学習者の日本語学習を支援し、促進する者

※文化審議会国語分科会「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」平成31年3月より抜粋

5 資質・能力

1 共通	<p>(1) 日本語を正確に理解して的確に運用できる能力を持っていること。</p> <p>(2) 多様な言語・文化・社会的背景を持つ学習者と接する上で、文化的多様性を理解し尊重する態度を持っていること。</p> <p>(3) コミュニケーションを通じてコミュニケーションに学ぶという日本語教育の特性を理解していること。</p> <p>※指導者と学習者が固定的な関係でなく、相互に学び、教え合う実際的なコミュニケーション活動</p>
2 知識	<p>(1) 日本語や日本文化、社会、多文化共生に対する一般的な知識・理解を持っている。</p> <p>(2) 日本語教育に携わる機関・団体及び関係者による支援体制と自らに期待される役割について理解している。</p> <p>(3) 学習者の来日の経緯、国や言語・文化背景、日本語の学習目的に対する一定の知識を持っている。</p> <p>(4) 異文化理解や異文化間コミュニケーション、コミュニケーション能力に関する基礎的な知識を持っている。</p> <p>(5) 日本語の構造や日本語学習支援に関する基本的な知識を持っている。</p> <p>(6) 地域の文化やその地域での生活に必要な知識を持っている。</p> <p>(7) 長野県内活動地域の在住外国人の特性を理解している。</p> <p>(8) 相手の文化や日本文化の双方を理解し、多文化共生の知識を持っている。</p>
3 技能	<p>(1) 分かりやすく伝えるために、学習者に合わせて自身の日本語を調整することができる。</p> <p>(2) 学習者の発話を促すために、耳を傾けると共に自身の発話を調整することができる。</p> <p>(3) 日本語教育コーディネーターや日本語教師とともに、日本語学習を支援することができる。</p> <p>(4) 学習者の状況を観察し、日本語教師や日本語教育コーディネーターの助言を得ながら、学習方法や学習内容を学習者に合わせて工夫することができる。</p> <p>(5) 日本語を教えるのではなく、コーディネーターや日本語教師と共に、学習者と積極的にコミュニケーションをとることができる。話し相手になることができる。</p> <p>(6) 地域によって文化と歴史、住民が違うということを理解し、伝えることができる。</p> <p>(7) やさしい日本語を使って外国人と地域住民とをつなぐ（両者に伝えられる）ことができる。</p>
4 態度	<p>(1) 学習者の背景や現状を理解しようとする。</p> <p>(2) 学習者の言語や文化を尊重し、対等な立場で接しようとする。</p> <p>(3) 学習者や支援者などと良好な対人関係を築こうとする。</p> <p>(4) 学習者が自ら学ぶ力を育み、その学びに寄り添おうとする。</p> <p>(5) 異なる考えや価値観を持つ他者と協働できる柔軟性を持つようとする。</p> <p>(6) 日本語交流員としての立場を理解し、学習者と対等に双方に学ぼうとする。</p>
5 その他	<p>(1) それぞれの地域に合った支援体制及び自身が活動する地域の地域特性を理解している。</p> <p>※地域特性とは、活動する地域に在住する外国人の特性等</p>

(参考)

各研修では以下の資質・能力の各項目について重点的に取り組む。

初期研修：「1 共通」「2 知識」「3 技能」

スキルアップ研修：「1 共通」「4 態度」「5 その他」

6 カリキュラム内容

日本語交流員【初期】研修

教育内容:

	テーマ	目標 (身に付ける 資質・能力)	内容	方法	時間数
1	日本語交流員の役割と 多文化共生（学習者の 背景に対する理解） ～日本語交流員の役割 を学ぶとともに多様性 を認め合おう～	1 (2) 2 (1)(3)(8) 3 (6) 4 (1)(5)(6) 5 (1)	(1) オリエンテーション ～日本語交流員に求められる役割、日 本語教育人材とは～ (2) 外国人をめぐる国内外の動き ・国の施策（在留資格等） ・国内の在留外国人の状況 ・主な出身国の文化背景（国の状況） ・来日理由、日本における生活状況な ど (3) 多文化共生とは (4) 「生活者としての外国人」に対する 日本語教育の目的・目標 (5) “よい” 支援・日本語教室とは	講義、 演習 ディス カッ ション	3
2	長野県、地域の独自性 ～どんな特徴があり、 どんな日本語教室があ り、学習者がいるのか を知ろう～	1 (2) 2 (2)(6)(7) (8) 3 (6) 4 (1)(2)(6) 5 (1)	(1) 県内に在住する外国人 ・全県及び地域の状況 (2) 多文化共生施策 ・長野県及び近隣市町村 (3) 外国人を取り巻く県内の特性、生活 事情等（他県との違いを理解する） (4) 外国人を取り巻く地域の特性、歴史 的背景、生活事情等（地域の違いを理 解する） (5) 地域の支援者の状況 (6) 地域日本語教育の実施体制と支援者 の役割（地域の日本語教室の紹介） (7) 日本語交流員の活躍の場	講義、 クイズ 形式演 習	3
3	やさしい日本語 ～日本語交流員として 身につけておくべき日 本語のスキル～	1 (1)(3) 2 (2)(5)(8) 3 (1)(2)(4) (5)(6)(7)	(1) やさしい日本語とは (2) やさしい日本語を使って身近な文化 等を伝える方法 (3) 日本語の構造 (4) 生活支援や地域の人との繋ぎ、地域 文化を紹介する上で必要な日本語の 構造	講義、 演習	3

4	多文化コミュニケーション～コミュニケーションから相手の文化を尊重しよう～	1 (1)(3) 2 (4) 3 (2)(4)(5) (6) 4 (3)(5)	(1) 異文化理解とは ※相手の文化の尊重と理解 (2) 多文化コミュニケーションとは (3) 日本語交流員としての傾聴 (4) 日本語交流員としての発話調整	講義、 演習	3
5	日本語交流員として～活動を想定し実践してみよう～	1 (3) 2 (5) 3 (3)(4)(5) 4 (4)(5)(6) 5 (1)	(1) これまでの研修の振り返り (2) 既存の地域日本語教室との連携 (3) 外国人支援の様々な事例紹介 (4) 日本語交流員としての実践演習	講義、 グループ演習	3
オ プ シ ョ ン	最近の外国人支援や日本語教室を知ろう		(1) 最近の外国人支援や日本語教室の事例参照 （「日本語交流員の活躍の場（モデル教室等）」の見学／地域の日本語教室の映像資料視聴／既存の日本語教室以外のお互いが対等性を持ってやり取りしている現場の見学）	見学 視聴	

日本語交流員【スキルアップ】研修

教育内容：

	テーマ	目 標 (身に付ける 資質・能力)	内 容	方 法	時間数
1	日本語交流員の役割と 多文化共生 ～初期研修の振り返り を通して改めて考えて みよう～	1 (2) 2 (7)(8) 4 (1)(5)(6) 5 (1)	(1) 初期研修受講後の振り返り (2) 私たちの地域の目指す姿 (受講者の想いを発散させる場)	演習 発表	2
2	地域のリソースと外国 人支援 ～地域のリソースを確 認して外国人支援を考 えよう～	2 (6) 4 (1)(3) 5 (1)	(1) 地域の外国人支援の繋ぎ先 (市役所等行政の担当課、関連のNPO 等) (2) 独学できる日本語学習教材(自習ド リル、e-Learning、遠隔授業等)の紹 介	講義 演習	2
3	コミュニケーション実 習 ～学習支援について、 コミュニケーションを 通して考えよう～	1 (1)(2)(3) 3 (1)(2)(7) 4 (1)(2)(3) (4)(5)(6) 5 (1)	(1) コミュニケーション実習 (それぞれの“ライフ”の共有→作文) (2) 実践に向けたオリエンテーション (3) 実践課題の設定	実習 演習 ディス カッシ ョン	3
グループ実践 ※					
4	実践の振り返り ～振り返りを通して実 践について改めて考え よう～	4 (1)(2)(3) (5)(6) 5 (1)	(1) 実践の振り返り (活動報告)	発表 演習	2
5	日本語交流員として ～長野県の多文化共生 社会を思い描こう～	1 (2) 2 (6)(7)(8) 4 (1)(5)(6) 5 (1)	(1) 研修全体の振り返り (2) 私たちの地域の目指す姿 (再度) (3) 日本語交流員の活躍の場について	ディス カッシ ョン 発表	3

※ 共通の関心のある受講者でグループ作成 → 支援に関するプランニング → 実践 → レポー
ト → 発表